

■杉山和一(検校) 盲人鍼術師。視覚障害者教育のパイオニア。管鍼術で治療範囲を飛躍させ、鍼術で唯一人神社に。

すぎやまかざいち
琉球使始・・・1610＝

藤堂藩士杉山権右衛門重政の嫡男に生まれる。幼名は養慶。

出生地は、伊勢国安濃津(三重県津市)のほか、大和、遠州浜松、奥州など異説があるが、誕生2年前には、藤堂高虎が津に移っており、

大坂夏の陣・1615＝ 5歳：この年、藤堂家臣だった父の兄が大坂夏の陣で戦死し、父が家督を継いで、津に来たらしく、
徳川家康没・1616＝ 6歳：この年には、津で暮らしていることが確実で、

この間、_伝染病により失明し、

菱垣廻船始・1619＝ 9歳：

徳川家光將軍1623＝13歳：

家督相続権を義弟に譲り、_刀を捨てて、医の道に進むことを決意、

紫衣勅許無効1627＝17歳：この頃、江戸で開業する盲人鍼医山瀬琢一に入門するが、
・・・・・・1628＝18歳：
武家の出でうまくなじめず、記憶力が悪くて技術も向上しないとの理由で、

糸割符拡大・1631＝21歳：この頃には、破門されてしまう。それでも、目の不自由な自分が生きるためには何かを成就大成させねばならぬと、帰郷する途中、_芸能の神であり盲目の守護神でもある江の島弁財天の祠に詣で、羹をもすがる気持ちで、必死に祈願し、神人無我の境地になっての帰り道、石につまづき倒れた時に手にひろった松葉の入った管から、管鍼術の着想を得ると、京都に上って修業、

徳川秀忠没・1632＝22歳：

島原の乱始・1637＝27歳：
入江流鍼術などの奥儀を学び、

・・・・・・1646＝36歳：

徳川家光没・1651＝41歳：

・・・・・・1655＝45歳：

明暦の大火・1657＝47歳：

ついに、_管鍼法として確立すると、自ら考案した術を家伝とせず、公開して広めようと、

・・・・・・1664＝54歳：この頃、再び*江戸に出、{杉山塾}を開いて、治療を始め、弟子も集め出す。

酒井忠清大老1666＝56歳：

三井越後屋・1673＝63歳：

やがて_名声が江戸城にまで届き、多くの医者が手を尽すも治らなかった將軍徳川家綱の治療に呼ばれ、

徳川綱吉將軍1680＝70歳：それでも、_家綱が死去してしまうと、その恩に報いるべく、
好色一代男・1682＝72歳：*鍼・按摩技術の取得、教育を主眼とした世界初の視覚障害者教育施設{杉山流鍼治導引稽古所}を開設。フランスでヴァランタン＝アユイが盲人に特別教育をする100年も前で、世界初の盲人教育施設となる。そこから多くの優秀な鍼師が誕生。テキストとして、「選鍼三要集」「療治之大概集」を著し、のちに後継者が編集した中国医学の概論「医学節用集」と合わせて、「杉山流三部書」となり、現代まで伝承される。鍼・按摩の教育の他、盲人の芸能集団{当道座}の再編にも尽力。

堀田正俊暗殺1684＝74歳：
出世景清初演1685＝75歳：この年以降、_將軍綱吉の〃ぶらぶら病〃(ノイローゼと思われる)の治療に取り組み、
別子銅山始・1691＝81歳：
奥の細道・・・1693＝83歳：

*長年の治療とその成果を感謝され、老いてもなお江戸から毎月江ノ島詣でを続ける検校の身を案じ、また常に傍においておきたい將軍綱吉から、本所一つ目の地を拝領(將軍綱吉の'何か欲しいものは'の問いに'目が欲しい'と答えたことから、本所一つ目が選ばれたという)し、さらに江ノ島まで行かなくて済むようにと、分社して弁財天社を建立して貰って、

芭蕉+師宣没 1694＝84歳：_没した。
のち、総検校役所、鍼治講習所がこの地移築され、現在は杉山和一を祀る江島杉山神社として残る。盲人の職業として鍼・按摩を定着させたことが、明治維新後の盲学校設立に際し、職業教育に鍼・按摩が取り入れられることになった。

杉山検校遺徳顕彰会ホームページ、桜霊会「世界に誇る江戸期の盲目の偉人」、